バスケットボールプラザ

Basketball Plaza *No.86*

2020年6月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

目　　次

○　理事会と定期総会の開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・　２

○　東京オリンピック出場女子チーム決まる　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
　大陸予選を勝ち抜いた 16 チームとオリンピック予選の成績

○　シニアチーム紹介 横浜ビー・シーガルズ　・・・・・・・・・・・・普及部・・・１４

○　高校籠球ふるさと記（兵庫県編）　・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・１８

○　図書紹介「ビジネスパーソン＆スポーツパーソン」　・・・・・・・事務局・・・２４
　丸山博司著書「企業が求める人材 それは考えられる人」を読んで

○　【先人の軌跡】「神田バスケットボール資料室」紹介　・・・・・・事務局・・・２６
　「ＪＢＢＳバスケットボール資料」の分別を完了して

○　会員だより
　リングに向かって“飛べ”１０年後の子供達　・・・・・・・鈴木承二・・・２８
　　その６：香港、日本人学校「J-Wings」の報告

○　会員だより
　横浜カップ・新型コロナウィルスとの戦い　・・・・・・・・・・油井 康・・・３０

○　第 22 回Wリーグ情報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

○　事務局だより ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・３５

○　プラザ こぼればなし ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

理事会と通常総会の開催

［事務局］

令和２年度開始にあたり、大野会長及び渡辺理事長の挨拶を紹介し、新年度恒例の理事会と通常総会について報告すると共に、採決対象の「通常総会資料」を添付します。

大野会長挨拶

本年も昨年同様、この１年間振興会発展のため真摯に取り組んでまいりました。

昨年度末からの新型コロナウィルス禍により、男女ともに開催国枠での出場が認められた 2020 東京オリンピックも 1 年の延期となりましたが、中止も叫ばれています。今後の進展が心配です。

コロナ問題を含め、私たちを取り巻く情勢と振興会につきましては、多くの問題を抱えていると思いますが、皆さん方のご支援によって乗り切っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

皆さんで前を向いて頑張っていきましょう。

渡辺理事長挨拶

前年度に引き続き、理事長職を務めさせていただきます。本年度の理事会、総会ともにコロナウィルスの感染拡大の影響から、書面決議での開催とさせていただきました。皆様方のご協力をいただきなんとか総会開催、決議までに至りこころから感謝申し上げます。

一部事業が中止になり、やむを得ないこととはいえ、申し訳なく残念な思いです。今年の事業については、情勢を判断しながら事業を慎重に進めることが必要になります。

会員相互の交流を図ることと同時に、バスケット界にどのようなカタチで役割を果たすことができるか、新しい事業としてどのような活動が必要であるか、皆さんのご意見をいただきあらたな活動の指針としたいと考えています。

今まで収集・整理した資料（史料）を「神田バスケットボール資料室」という呼称でまとめました。皆さんからの「知りたいこと、調べたいこと」に答えるだけでなく日本のバスケットボールの歴史資料室としてさらに充実させていきたいと考えています。

理事会と通常総会

令和２年度、定例に開催される理事会及び通常総会は、新型コロナウィルス禍のため、書面決議となりました。

提案の議題に対しましては、理事会で 6 月 8 日までに全員のご賛同をいただき、その結果を通常総会に提議し、会員の皆様から 6 月 25 日までに返信をいただくよう案内いたしました。

議案の採決は、定款 26 条（議決）により、出席正会員の過半数をもって可否が決定されます。

従って、正会員 159 名に対し、締め切り日、6 月 25 日までの賛成者 89 名をもって「令和２年度通常総会資料」は原案通りに可決されました。

また、25 日までに未着の分は「令和２年度通常総会採決報告」として、次回プラザ 87 号の「事務局だより」に掲示します。

なお、いただきましたご意見は下記の通りです。

・総会が中止になり、皆さんとお会いできず残念でした
・事業のマンネリ化からの脱却
・シニア交歓大会の記念大会を地方での開催を検討
・研修会として、Ｂリーグ観戦を企画・検討してほしい
・コロナウィルス感染拡大の影響のなかで、これだけまとめたことは大変でしたね
・オリンピックが延期になりましたが、引き続き男女全日本チームを応援しましょう
・シニア交歓大会を代々木第二体育館で開催するよう希望します

続いて、可決された下記「通常総会資料」を添付します。

１．令和元年度事業活動報告、及び会員動向、
２．令和元年度特定非営利活動に係る事業会計収支決算書、及び特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表、
３．令和元年度監査報告、
４．令和２年度事業活動計画（案)、
５．令和２年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書（案）
６．令和２・３年度役員の新任・退任（案）

令和 2 年度　通常総会資料

1. 令和元年度事業活動報告

1. 日本バスケットボール協会への協力と提言
　　－ 日本バスケットボール協会の活動、事業への協力
2. バスケットボール競技団体への協力・支援
　　－ シニア、障がい者、ミニ、中体連など
3. バスケットボールの広報・啓発活動の推進
　　－ バスケットボールの日の活動支援,日本バスケットボール学会との連携など
4. 日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
5. 組織の充実と財政の確立
　　－ 会員の増強、助成事業などの見直しを実行し、財政の健全化を図る
6. 会員相互の交流を図る

各部	事業内容	事業目標	平成３０年度 事業計画	事業実績
総務部	振興会活動の発展支援	1) ＪＢＡ事業活動への協力と提言	・ＪＢＡ、Ｂリーグ等との関係の維持・強化 ・Ｂリーグチームの社会貢献活動への参加提言（バスケさわやか広場）	・特になし ・継続活動
		2) メルマガの内容充実と会員の増強キャンペーンの実施	・広報部、編集部との協力の下、３ヶ月毎に発信 ・全国シニア交歓大会、医学リーグ、同好会チームでの積極的な勧誘他	・広報部・編集部の協力によりプラザ発信後に定期発信した ・シニア大会での勧誘により２名が新規加入
		3) 会長・理事長の特命事項	・バスケットボールの新たな展開への課題の対応 特に都道府県別ミュージアムの創設に注力	・学会、殿堂、ネットボール、能代ミュージアムの活動に協力
広報部	振興会の周知による会員増強施策	1) 本会の活動を多くのバスケットボール愛好者に正しく理解して頂く	・公式ホームページの下記項目の更新 ・国際大会、全国大会のスケジュールをカレンダーに掲載 ・振興会の活動予定、活動内容の告知 ・プラザ広告掲載企業の広告バナーの配置	・特になし ・特になし ・特になし ・実績なし
		2) 本会の会員であることのメリットをアピールする	・総務部と連携してメールマガジンの会員を増やして発信 ・プラザ発行後直ぐにメルマガを配信	・従来のプラザ案内に加え、日本代表やＢリーグ、Ｗリーグの情報も配信
		3) ＪＢＡと連携しバスケットボール資料のデータベースを作成する	・バスケットボール資料のデータベース作成	・特になし

		4）若年層のバスケットボール愛好者にも訴求するような広報の内容・手法を検討する	・事業目標に向けた具体的検討 ・入会促進リーフレットとカードのリニューアル	・特になし
		5）その他	・月刊バスケットボール誌を希望会員へ配布	・計画通り実施
歴史部	バスケットボール競技に関する歴史情報の収集と周知	1）歴史的資料の収集・保管を継続する	・継続実施	・広報部３）に同じ
		2）新企画のテーマとして競技施設の歴史的検討を取り上げる	・リング、コート等の歴史のまとめ ・リオオリンピック参加選手の座談会企画 ・その他	・実績なし ・実績なし ・「先人の軌跡」プラザに掲載
編集部	会報「バスケットボールプラザ」の編集と発行	1）年間４回、四半期ごとの定期発行	・掲載記事充実のため、各号編集会議を複数回開催 ・紙面体裁の整備を図る	・６月、８月、11月、翌年２月発行 ・誌面の刷新を継続検討
		2）関連する協会・連盟等の取材記事充実	・ＪＢＡをはじめとするバスケットボール関連各種団体と連携を密にして積極的に取材	・特になし
		3）掲載記事内容の拡張と充実	（掲載記事の積極的な収集） ・振興会内部の各部門と連携し、案件を授受して特集記事に作成し編集 ・振興会会員に参加して頂くバスケットボール関連記事の発掘（情報提供、問題提起、建設的意見交換、自身の奮闘記事などの提供呼掛け） ・その他、会報に適切な記事の発掘	・歴史部、普及部の特集、その他の協力を得て掲載始まる ・「高校籠球ふるさと記」（京都府編）掲載 ・「医学部リーグ」等記事掲載 ・テーマを挙げて検討中
		4）有料掲載広告の獲得	・広く会員にお願いして種々の業種・団体と交渉 ・前年度実績以上の獲得を図る	・継続努力 ・計画通り実施
普及部	バスケットボール競技の普及・支援	1）シニア交歓大会の開催とシニアバスケットボール活動の助成	・代々木青少年スポーツセンターでシニア大会in YOYOGIの開催（５月24日・25日）と助成 ・ゴールデンシニア交歓大会横浜カップ大会の助成	・計画通り実施 ・計画通り実施
		2）障がい者バスケットボールの活動支援	・障害者バスケットボールの活動支援	・特になし

		3) 中学生バスケットボールクリニック開催への協力	・中学生バスケットボール（初心者向け）クリニックに協力（世田谷区、京都市）、「シュートを上手になろう」とテーマを絞って開催	・計画通り実施
		4) 「12月21日はバスケットボールの日」記念行事に協力	・１月22日狛江市民総合体育館開催に協力	・計画通り実施
事務局	振興会活動の運営支援	1) 通常総会（於:池坊東京会館）	・30年度活動計画/同左決算報告 ・元年度活動計画/同左予算（案） ・春季交流会	・5月16日池坊東京会館開催
		2) 秋季講演会（於:池坊東京会館）	・元年11月講演会および秋季交流会	・11月７日韓国KBS番組「韓国のクーベルタン李想伯」の映像説明
		3) 理事会	・原則、年２回開催（於：振興会事務所）	・年２回実施
		4) 正副部長会	・原則、３ヶ月に１回開催（於：振興会事務所）	・年３回実施
	の事務効率運営化	5) 会員の名簿管理 会費の管理	・会員の名簿管理、会費の管理と併せ会費の徴収を迅速に実施	・計画通り実施

令和元年度　会員動向

	平成３０年度末 (H31.3.31)	令和元年度末 (令2.3.31)	増　減	備　　考
個人会員	１７３名	１６５名	▲８名	新規会員　　９名 退会者　　１７名（内 逝去者 2名、2年以上会費未納６名）
賛助会員	８社	７社	▲１社	新規会員　　０社 退会会員　　１社

２．令和元年度特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

令和元年4月1日～令和2年3月31日　　(単位:円)

科　目	元年度予算	元年度決算	増　減	備　考
Ⅰ　経常収支の部				
1. 経 常 収 入				
(1)会費収入				
正会員会費	1,550,000	1,330,000	▲ 220,000	
賛助会員会費	400,000	350,000	▲ 50,000	
会費収入計	1,950,000	1,680,000	▲ 270,000	
(2)事業収入				
広告掲載料	200,000	280,000	80,000	
月刊BB負担金	304,000	272,000	▲ 32,000	
各種販売益	0	24,000	24,000	
交流会･講演会	10,000	1,160	▲ 8,840	
シニア大会	350,000	300,000	▲ 50,000	
そ の 他	0	14,000	14,000	
事業収入計	864,000	891,160	27,160	
(3)寄 付 金	118,000	248,000	130,000	
(4)雑 収 入	42,000	30,000	▲ 12,000	
(5)受取利息	0	2	2	
経常収入計	2,974,000	2,849,162	▲ 124,838	
2. 経 常 支 出				
(1)事 業 費				
広報･啓発活動費	1,082,000	1,077,466	▲ 4,534	
普及支援活動費	252,000	373,705	121,705	
協力及び提言活動費	0	0	0	
調査･研究活動費	120,000	73,880	▲ 46,120	
その他活動費	50,000	65,000	15,000	
事業費計	1,504,000	1,590,051	86,051	
(2)管理費				
会議費	70,000	33,638	▲ 36,362	
通信費	150,000	104,724	▲ 45,276	
水道光熱費	60,000	64,727	4,727	
事務所借用費	660,000	705,632	45,632	
租税公課	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
その他事務所運営費	450,000	472,498	22,498	
管理費計	1,390,000	1,381,219	▲ 8,781	
経常支出計	2,894,000	2,971,270	77,270	
3. 経常収支差額	80,000	▲ 122,108	▲ 202,108	
Ⅱ　その他資金収支の部				
1. その他資金収入				
その他資金収入計	0	0	0	
2. その他資金支出				
その他資金支出計	0	0	0	
当期収支差額	80,000	▲ 122,108	－	
前期繰越収支差額	0	711,995	711,995	
次期繰越収支差額	80,000	589,887	509,887	

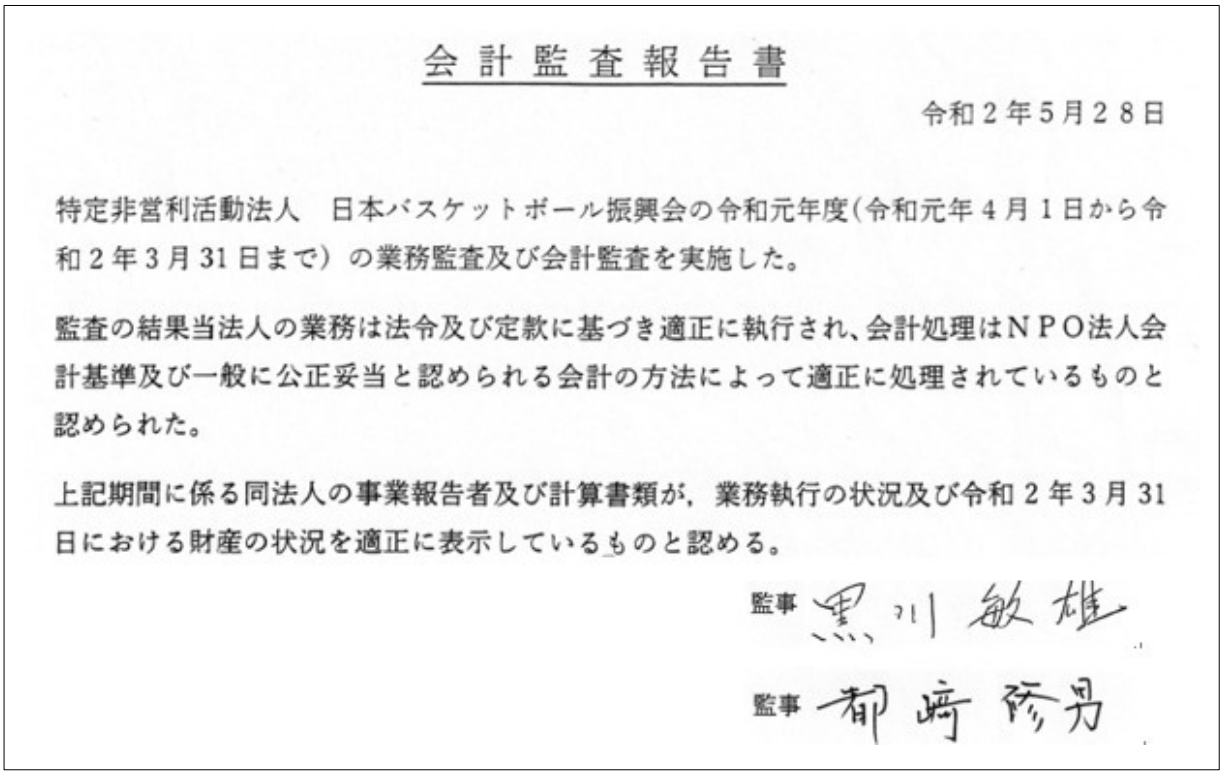
特定非営利活動法人に係る事業会計貸借対照表

NPO法人　日本バスケットボール振興会　　〔税込〕（単位：円）

2020年3月31日　現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
（現金・預金）		流動負債　計	0
現金	10,914	**負債の部合計**	0
普通　預金	287,895	**正味財産の部**	
三菱UFJ銀行	(148,028)	【正味財産】	
みずほ銀行	(139,867)	正味　財産	589,899
振替　貯金	90,677	（うち当期正味財産増加額）	△122,096
ゆうちょ銀行	(90,677)	正味財産　計	589,899
現金・預金　計	389,486	**正味財産の部合計**	589,899
流動資産合計	389,486		
【固定資産】			
（投資その他の資産）			
長期　預金	200,413		
三菱ＵＦＪ銀行	(200,413)		
投資その他の資産　計	200,413		
固定資産合計	200,413		
資産の部合計	589,899	**負債・正味財産の部合計**	589,899

３．令和元年度監査報告



会計監査報告書

令和２年５月２８日

特定非営利活動法人　日本バスケットボール振興会の令和元年度(令和元年４月１日から令和２年３月31日まで）の業務監査及び会計監査を実施した。

監査の結果当法人の業務は法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理はＮＰＯ法人会計基準及び一般に公正妥当と認められる会計の方法によって適正に処理されているものと認められた。

上記期間に係る同法人の事業報告者及び計算書類が，業務執行の状況及び令和２年３月31日における財産の状況を適正に表示しているものと認める。

監事　黒川敏雄

監事　都﨑隆男

４．令和2年度事業活動計画（案）

１．日本バスケットボール協会への協力と提言
２．バスケットボール競技団体への協力・支援
３．バスケットボールの広報・啓発活動の推進
４．日本バスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
５．組織の充実と財政の確立
６．会員相互の交流を図る

令和２年度より事業部は、編集部、普及部、歴史部のみとし、従来の総務部、広報部、財務部は全て事務局に集約する。　併せて、事業部の活動の内容を明確化する。

<table>
<tr><th>各部</th><th>事業内容</th><th>具体的内容</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td>編集部</td><td>1.　会報「バスケットボールプラザ」の発行</td><td>1）発行時期と主な掲載記事（予定）
<table>
<tr><th>NO</th><th>発行時期</th><th>主な掲載記事</th></tr>
<tr><td>86</td><td>令和２年
６月</td><td>理事会と定期総会開催、中学生クリニック開催報告、シニアチームの紹介、Ｂリーグ・ＷＪＢＬ結果報告、「先人の軌跡」、「神田バスケットボール資料室」の紹介、「高校籠球ふるさと記」掲載など</td></tr>
<tr><td>87</td><td>令和２年
８月</td><td>今後の課題、「先人の軌跡」、「神田バスケットボール資料室」など</td></tr>
<tr><td>88</td><td>令和２年
11月</td><td>秋季講演会、交流会開催、Ｂリーグ・ＷＪＢＬなど大会情報、「先人の軌跡」、「神田バスケットボール資料室」など</td></tr>
<tr><td>89</td><td>令和３年
２月</td><td>天皇杯、皇后杯、ウインターカップなど大会結果、「バスケットボールの日」・「シニア交歓大会」開催報告など</td></tr>
</table>
（新連載記事）
・　高校籠球ふるさと記
インターハイ等を中心に各都道府県の歴史を振り返る
NO.84号（2019年11月号）の京都府を皮切りに順次掲載予定
・　学校訪問
・　神田バスケットボール資料室の資料紹介、ルールの解説記事など
2）発行部数の拡大
現状約２００部から１００部以上の拡大
3）広告掲載社の維持・拡大
現状6社（年間広告額２８万円）の維持・拡大</td><td>コロナ感染影響により一部掲載記事が変更になる</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>普及部</td>
<td>1. シニア大会の開催と拡大

2. 他団体への活動協力

3. 中学生クリニックの開催</td>
<td>1）第１３回シニアバスケットボール交歓大会を１１月１２・13日に「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催、約２００名の参加予定

2）全国で開催されているシニア大会の情報収集とプラザ等での紹介

1）「バスケットボールの日」開催協力等

1）開催時期・地区とテーマ
<table>
<tr><th>開催時期</th><th>開催地区</th><th>テーマ</th><th>参加人数</th></tr>
<tr><td>令和2年5月</td><td>京都市</td><td>「シュートをうまくなろう」</td><td>100名</td></tr>
<tr><td>令和2年11月</td><td>東京都世田谷区</td><td>「シュートをうまくなろう」</td><td>101名</td></tr>
</table>
（注）参加人数は前年度実績
2）検討課題
クリニックの内容を集約し中学生のコーチ・選手等に紹介するツールを検討</td>
<td>コロナ感染影響により、中学生クリニックも開催は中止</td>
</tr>
<tr>
<td>歴史部</td>
<td>1. 歴史的データの収集と整理</td>
<td>1）日本バスケットボールの歴史的資料のアウトプットの具体的方法を検討
2）神田バスケットボール資料室の資料の公開と閲覧の実施
3）ＪＢＡ 90周年の歴史のトピックスを整理する</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>事務局</td>
<td>1. 振興会活動の運営の支援と効率化を計る</td>
<td>1）理事会、総会、講演会等の事務連絡及び振興会の活動の円滑化を図る
2）「神田バスケットボール資料室」を新設
3）会員数及び賛助会員（７社）の維持拡大
4）「プラザ購読会員」の新規会員獲得に努力する
5）地方協会の「プラザ購読一部負担金」増加を計る
6）ホームページ・メルマガなどによる情報発信</td>
<td></td>
</tr>
</table>

（参考）神田バスケットボール資料室の概要

日本のバスケトボール関係の資料を収集し「先人の軌跡」である歴史的資料を次世代へつなげ、次の３つの区分として資料の充実と索引・整備を図る

1) バスケットボールの発行物
2) 個人所有の収集物の保管
3) バスケトボール関係の大会記念品、参加章等

５．令和２年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書（案）

令和2年4月1日～令和3年3月31日　　（単位:円）

科　目	元年度予算	元年度実績	2年度予算	対元年度予算比	対元年度実績比	備　考
Ⅰ　経常収支の部						
1. 経 常 収 入						
(1)会費収入						
正会員会費	1,550,000	1,330,000	1,400,000	▲ 150,000	70,000	
賛助会員会費	400,000	350,000	350,000	▲ 50,000	0	
会費収入計	1,950,000	1,680,000	1,750,000	▲ 200,000	70,000	
(2)事業収入		0			0	
広告掲載料	200,000	280,000	300,000	100,000	20,000	
月刊BB負担金	304,000	272,000	300,000	▲ 4,000	28,000	
各種販売益	0	24,000	0	0	▲ 24,000	
交流会･講演会	10,000	1,160	10,000	0	8,840	
シニア大会	350,000	300,000	300,000	▲ 50,000	0	
そ の 他	0	14,000	0	0	▲ 14,000	
事業収入計	864,000	891,160	910,000	46,000	18,840	
(3)寄 付 金	118,000	248,000	188,000	70,000	▲ 60,000	
(4)雑 収 入	42,000	30,000	42,000	0	12,000	
(5)受取利息	0	2	0	0	▲ 2	
経常収入計	2,974,000	2,849,162	2,890,000	▲ 84,000	40,838	
2. 経 常 支 出		0			0	
(1)事 業 費		0			0	
広報･啓発活動費	1,082,000	1,077,466	1,126,000	44,000	48,534	
普及支援活動費	252,000	373,705	322,000	70,000	▲ 51,705	
協力及び提言活動費	0	0	0	0	0	
調査･研究活動費	120,000	73,880	80,000	▲ 40,000	6,120	
その他活動費	50,000	65,000	50,000	0	▲ 15,000	
事業費計	1,504,000	1,590,051	1,578,000	74,000	▲ 12,051	
(2)管理費		0			0	
会議費	70,000	33,638	40,000	▲ 30,000	6,362	
通信費	150,000	104,724	150,000	0	45,276	
水道光熱費	60,000	64,727	60,000	0	▲ 4,727	
事務所借用費	660,000	705,632	660,000	0	▲ 45,632	
租税公課	0	0	0	0	0	
雑 費	0	0	0	0	0	
その他事務所運営費	450,000	472,498	400,000	▲ 50,000	▲ 72,498	
管理費計	1,390,000	1,381,219	1,310,000	▲ 80,000	▲ 71,219	
経常支出計	2,894,000	2,971,270	2,888,000	▲ 6,000	▲ 83,270	
3. 経常収支差額	80,000	▲ 122,108	2,000	▲ 78,000	124,108	
Ⅱ　その他資金収支の部						
1. その他資金収入		0			0	
その他資金収入計	0	0	0	0	0	
2. その他資金支出		0			0	
その他資金支出計	0	0	0	0	0	
当期収支差額	80,000	▲ 122,108	2,000	▲ 78,000	124,108	
前期繰越収支差額	796,175	711,995	589,887	▲ 206,288	▲ 122,108	
次期繰越収支差額	876,175	589,887	591,887	▲ 284,288	2,000	

６．令和２・３年度役員（案）

50音順

	氏　　名	
会　　長	大　野　龍　一	
副 会 長	小　澤　正　博	
	上　谷　富　彦	昇任
理 事 長	渡　邊　　誠	
副理事長	蒲　田　尚　史	
	佐々木　政　治	
	杉　山　絹　枝	
理　　事	池　田　　理	
	奥　田　晃　紀	新任
	鹿子木　　雅	
	草　階　勇　人	
	佐　藤　精　孝	
	篠　原　正　邦	
	渋　谷　美由紀	
	鈴　木　承　二	
	羽佐田　恭　正	
	深　尾　秀　次	
	諸　山　文　彦	
	結　城　昭　二	
監　　事	黒　川　敏　雄	
	都　﨑　修　男	

退　　任	榊　原　みどり	従　野　明　宏

顧　　問	愛　知　和　男	佐　室　有　志
	麻　生　太　郎	水　野　明　人
	小笠原　義　昭	従　野　明　宏
	笹　岡　太　一	

東京 2020 オリンピック出場女子チーム決まる

大陸予選を勝ち抜いた 16 チームとオリンピック予選の成績

［編集部］

東京 2020 オリンピック競技大会には各大陸の予選「ＦＩＢＡ女子プレ・クォリファイイングトーナメント 2019」を勝ち抜いた 16 チームが「ＦＩＢＡ東京 2020 オリンピック予選大会」に出場し、４グループに分けられた各グループ上位３チーム、合計 12 チームにオリンピックの出場権が与えられた。尚、既に東京オリンピック出場権を持つ、日本（開催国枠）とアメリカ（ワールドカップ優勝）の２チームもこの予選大会への出場が義務付けられていた。

ＦＩＢＡ女子プレ・クォリファイイングトーナメント 2019

このトーナメントは、下記３地域で 2019 年 11 月までに各地区の大会として開催され、ヨーロッパからスペイン、フランス、セルビア、英国、スウェーデンとベルギー、アフリカからモザンビークとナイジェリア、アメリカからブラジル、カナダ、プエルトリコと米国、そして、アジア・オセアニアからＦＩＢＡ女子アジアカップ 2019 上位４チームのオーストラリア、中国、日本と韓国、これら合計 16 チームが勝ち抜いた。

ＦＩＢＡ 東京 2020 オリンピック予選大会

先の２月発行 85 号の「プラザこぼればなしで記述の通り、女子日本代表は、下記日程でベルギーのオーステンドにおいて開催のグループに出場し、１勝２敗３位の成績を確保して開催国枠での出場に対し面目を保った。

２月６日（木）　日本 ○ 75 ― 54 ● スウェーデン
２月８日（土）　日本 ● 84 ― 92 ○ ベルギー
２月９日（日）　日本 ● 68 ― 70 ○ カナダ

グループごとの成績順位

開催地	１位	2位	3位	4位
ベルギー	カナダ	ベルギー	日本	スウェーデン
	4	7	10	20
フランス	フランス	オーストラリア	プエルトリコ	ブラジル
	5	2	22	15
セルビア	ＵＳＡ	セルビア	ナイジェリア	モザンビーク
	1	8	14	36
	中国	スペイン	韓国	ギリシャ
	9	3	19	13

（３位までの上位12チームが本戦出場）　　下段数字は世界ランク

オリンピックの日程が新型コロナウィルス禍のため１年延期されたので、大会組合せの発表も 2020 年３月 20 日予定は延期された。　以上

シニアチーム紹介　横浜ビー・シーガルズ

［普及部］

普及部では、本誌紙面で全国のシニアチームを逐次紹介することとした。
各チームに、歴史にはじまり、特色ある面を存分に吹聴頂きたいと思っている。
今回は、横浜のチーム「横浜ビー・シーガルズ」を紹介する。

“誕生”横浜ビー・シーガルズ

狩野　　治

『栄（さか）行く御代の民草我等事業（ことわざ）こそは種々（しなじな）かわれ』これは、私の母校横浜市立横浜商業高等学校の校歌の一節であります。後の横浜ビー・シーガルズを語るため、高校卒業の時代まで遡ることとさせていただきます。

それでは本題に入りたいと思います。半世紀以上前の話になるため記憶も薄れ、思い出すのもかなり大変な状況でありますが、此処まで来るまでには過去の長い歴史と経緯がある訳でございます。

私は、横浜商業高校に入ってから暫くの間、クラブ活動はしておりませんでしたが、クラスメイトには中学校時代に互いに戦ったバスケットボール仲間が２人おり、誘われてバスケットボール部に入り活動してまいりました。そして昭和４１年に卒業しましたが、その後もバスケットボールを続けて行きたいと言う気持ちが強く、２年先輩の代から私たちの代でメンバーを集め、Ｙ校(横浜商業高校の通称)クラブと言うチームを作り、早速登録することとなりました。そして、横浜市の大会や神奈川県の大会に参加する事となりました。

この頃はまだ皆若く、体力もあり(当然ですが)１日に２試合、多いときは３試合をすることもありました。その後、後輩も入り大会では常に上位の戦績を上げることが出来ました。

しかしながら、残念な事に我々のチームには、定期的に練習が出来る場所がありませんでした。そのため、夜間部のバスケットボール部（今は無いと思いますが）にお願いして、練習を相当長い間一緒にさせていただいていた状況でした。そのころは、バスケットボールが出来る体育館を探し、そこに集まったバスケット仲間と合同での練習をするような日々でした。他のチームのメンバーと共に練習をすることで、仲間が増え顔みしりも多くなっていきました。

その後、横浜市で夜間の学校開放の制度が出来たことで、中学校の体育館を借りて週に1 回の練習が出来るようになり、また徐々に後輩も入ってきてかなりの数のメンバーとなっていきました。しかしながら、練習場が確保できる一方で、メンバーが皆社会人である

ためこの頃になると仕事も忙しくなってきます。従って、なかなか全員が集まっての練習もままならず、同期のチームメイトの中からも、もう少し練習が出来るチームへと移る者が何人か出てきてしまいました。それもやむを得ないことであると諦めるしかありませんでした。寒い冬の夜の練習も５・６人と言う時もあり、一番つらいチームの状況であった時期でありました。

しかしその間にも継続して各大会には出場し続けていました。この頃になると、メンバーも増え、さらに後輩との年齢の差も出てきたこともあり、チームを若手と年寄りの２チームに分けることになりました。そして、我々のチーム名もＹ校ロイヤルクラブとして、若手と別々に登録をして試合に参加するようになっていきました。

◎　横浜市マスターズバスケットボール大会への参加

私も丁度 40 歳になった昭和 63 年に、かねてより横浜市のバスケット協会で計画されていた、シニア（40 歳以上）を対象とした大会を開催するとのことになり、同年９月に横浜市民マスターズバスケットボール大会第１回が開催されました。その頃は、まだ 40 歳を過ぎてバスケットボールを続けている人数も少なく、なかなか 40 歳以上で１チームを作ることも難しい状況であったため、参加チームはかなり少なかったと思います。そのため、実際には登録年齢を 37 歳からとして始めることとなりました。

我々のチームＹ校ロイヤルクラブは、37 歳以上が数多くいたため苦労せずにチームが出来上がりました。そして第１回～３回大会までは優勝という戦績を収める事ができました。しかしながら、回数を重ねるうちには、依る年波と身体の故障等により徐々にメンバーから離脱者が出て来るようになりました。平成１６・７年頃には一番メンバーも少なくなり、正に存続する事も難しく、Ｙ校ロイヤルクラブの廃しも考えざるを得ない状態でありました。

平成 18 年頃からは、主力メンバーである川戸さんが、勤務していた会社の方で作っていたチーム、レディーバードと合同で練習をしたりして、交流を深めていきました。その中から数名のメンバーがＹ校ロイヤルクラブに合流してくれたことで、チーム名をＹ校レディーバードに変更し、その後も継続して試合に参加することとなりました。

横浜市民マスターズバスケットボール大会は、回を重ねること令和元年で第 32 回を迎えました。今後も継続していくものと思われます。

◎ 八幡カップ全国シニア大会への参加

平成８年には山形県の八幡町(現酒田市)において、全国シニアバスケットボール交歓大会が開催されることとなりました。八幡町からは事前に大会開催についてのアンケート調査、その他参考意見等の提出依頼がありました。それと言うのも、横浜市では比較的早くからシニアバスケットボールの大会が開催されていたからだと思います。

そして、第１回大会が開催されることとなり、Ｙ校ロイヤルクラブも是非とも参加するべく、参加者を募りましたが、我がチームのメンバーの参加者６人では足りません。この時は、以前より練習を共にしており、川崎市に登録をしていた「かえるクラブ」のメンバー６人と混成チームを作り参加することができました。

この様に、いろいろな所で練習をすることで、他のチームとの繋がりが出来て行ったことで、他県での大会へ参加する事が可能となりました。

平成 21 年度大会においては、Ｙ校レディーバードはスーパーシニア(50 歳以上)の部に、レディーバードのメンバーとの混成チームで参加し、準優勝することができました。

さらに平成 23 年には、横浜カップより一足早く八幡カップにおいて今までのカテゴリーにゴールデンシニア(60 歳以上)の部が新たに加わりました。第１回沖縄大会には、Ｙ校レディーバードのメンバーと、埼玉、千葉、東京、茨城などのメンバーで構成された混成チームで関東選抜として参加をし、地元沖縄に決勝戦で敗れ準優勝という結果でした。

◎ **全国ゴールデンシニアバスケットボール交歓大会横浜カップへの参加**

横浜ビー・シーガルズの誕生について、大きく関わってきているのが、平成 24 年２月に開催された、横浜ゴールデンシニアバスケットボール全国交歓大会(60 歳以上)です。大会参加と共に、主催市として横浜で１チーム作ることとなりました。横浜で是非ともチームを作りたかったため、Ｙ校レディーバードからの狩野、横山、山上、田中、斉藤に加え、それまで共に練習や試合をしてきた仲間で、横浜市マスターズ大会参加チームの中から、横浜カップへの参加協力をお願いし、横浜選抜チームが出来上がりました。すなわち、高舟台ファミリーズの條さんを含め６名、横浜ＹＣクラブから安田さんを含め２名、横浜黒船ＯＢクラブから藤田さんを含め２名のメンバーです。

Ｙ校レディーバードの主力メンバーである川戸は、八幡カップ参加の際に作った関東選抜のメンバーとして第１・２回は参加し、第３回以降は横浜選抜のメンバーに戻り活躍しました。

横浜市主催の横浜カップではありますが、第１・３回の３位が最高位なので是非ともももう少し上を目指して頑張りたいところです。ここの段階で、ほぼ現在のチーム横浜ビー・シーガルズの原型が固まってきたところです。

なお、第４回以降からは、関東ゴールデンシニアバスケット連盟加入に際し、ビー・シーガルズとしての登録となりました。

◎ **関東ゴールデンシニアバスケットボール連盟への参加**

平成 26 年４月に関東ゴールデンシニアバスケットボール連盟を立ち上げることとなりました。

連盟への参加については、横浜カップに参加していたメンバーに新たに数名を加え登録をし、参加することとなりました。そこでチーム名も横浜選抜では無く、新たなチーム名を考えることとしました。メンバーから名前を募集したところ、幾つか上がった名前の中から検討した結果、決まったチーム名がビー・シーガルズです。

現在の活動は、主に市内の小学校の体育館を借り第２・第４日曜日の月２回と、区のスポーツセンターを利用し、川戸の見ていたミニバスの卒業生で中学生、高校生と共に練習をしております。バスケットボールの好きな方どうぞ一緒に練習してみませんか。大歓迎です。

ところで、ビー・シーガルズと言うチーム名の由来ですが、シーガルは神奈川県の鳥カモメです。ビーとは「ベイ－bay(湾～横浜の海をイメージ)とＢリーグの横浜ビーコルセアーズのビー、プロ野球と言えばベイスターズのベイと、色々勝手に織り込んで出来上がりました。

この様に、バスケットボールを通じて仲間が広がりまた繋がることで、諸山さんや阿部さん、山本さん等往年の名プレーヤーの方々や、その他多くの人と交わる事もできました。

また、日本バスケットボール振興会主催の YOYOGI 大会は、憧れの代々木体育館で試合ができたこと、これも長きにわたりバスケットボールを続けていたからこそだと思います。今後も楽しみにしております。

◎ 沢山の仲間と知り合いまだまだ続けていきたい思い

更には、海外にも進出しハワイ、カリフォルニア、香港への遠征試合それにクロアチア、フィンランドでのＦＩＭＢＡワールド大会、ニュージーランドではワールドマスターズ大会にも、混成チームを作って日本中のバスケットボール仲間と参加をしてきました。

Ｙ校クラブの立ち上げから横浜ビー・シーガルズが誕生し、現在に至るまで 54 年も経ちましたがバスケットボールを通じて、北海道から沖縄まで沢山の仲間に知り合えたことは大きな財産だと思います。

そして、ここまでチームを存続し、続けてこられたのは、私一人の力だけでは当然ありません。ほぼ 50 年の間、協力を惜しまず共に行動してきた、後輩川戸の大きな存在であります。兎にも角にも「感謝」の一言であります。

今年は、70 歳以上の試合も組まれるようですが、まだまだ先輩のプレーヤーも多くいることで、怪我をせず健康で体の動く間は、楽しいバスケットボールをまだまだ続けて行かなければとの思いです。

最近の 横浜ビー・シーガルズ メンバー

高校籠球ふるさと記（兵庫県編）

［事務局］

兵庫県のバスケットの歴史を語る場合、最初に思い浮かぶのが兵庫県バスケットボール協会である。1931年に大日本バスケットボール協会兵庫支部としてスタート、澤田修太郎（関学大バスケット部ＯＢ、塩野義製薬で部創設、同社専務を歴任）が理事長に就任、神戸ＹＭＣＡ体育部に事務所を開設、他府県に先駆け、外国チームを招待してゲームを開催した（1931年フィリピン、1933年ハワイ、1935年日米対抗試合）。

さて、戦後の協会の復興は1946年、新しく開館した西宮体育館での関西バスケットボール協会設立記念大会から始まった。同年開催の第一回国民体育大会では一般男子で神戸学士倶楽部が、一般女子では山手倶楽部がそれぞれ準優勝を飾っている。神戸学士倶楽部は1947年､48年と全日本総合選手権大会で連続優勝を飾った｡この神戸学士倶楽部であるが、京都帝国大学で活躍した主に兵庫県出身の選手（岩尾、白山、鹿島<旧制甲南高校>、杉野<灘中 - 三高>）が中心メンバーのチームで戦後の兵庫県のバスケット界にも多大な影響を与えている。また、戦前から戦後にかけて裏方で協会の世話をしたのが、ＹＭＣＡ総主事の本城敬三。その人脈で神戸財界の名士（滝川清一、小曾根眞造ら）を協会トップに据え、その後の協会発展の礎を築いた(因みに戦後､同氏は県協会副会長や神戸市協会長も歴任)。

このような歴史と伝統を誇る兵庫県のバスケットであるが、本誌では1951年から1988年迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の審判員や協会関係者にも焦点を当て、兵庫県のバスケット界を通観してみた。内容に、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。

（なお、個人名は敬称略。女性は旧姓。参照文献は末尾に記載）

先ずは、男子であるが、大きくは６つの期間に分けることが出来る。

第一期（1951年―53年）

県立星稜が福井、野中両教諭の指導の下、圧倒的な力を誇り、３年連続県高校選手権大会で優勝。それ以外では県立神戸が５２年の国体近畿予選決勝で京都府立山城を破り，出場権を獲得している。この時期、活躍した選手には星稜の山田兄弟や谷のほか、神戸の柴垣（53年卒 - 同志社大 - 松下電器）らがいる。

第二期（1954年―58年）

県立星稜に加え、私立灘、私立甲南、県立神戸が台頭。中でも甲南のインターハイベスト４（55年）、ベスト８（56年）、国体でのベスト４（55年）、準優勝（56年）、近畿大会優勝（56年）が際立っている。この時期、活躍した選手には甲南の平松、宮垣、野間元、山野(56年卒)、福井（57年卒）（いずれも甲南大でも活躍）、神戸の井村（56年卒 - 関学大 - 日立大阪）や西村（56年卒 - 同志社大 - 日本伸銅）らがいる。

第三期（1959年―66年）

私立甲南、県立神戸の両雄に神戸市立葺合や私立関学、県立芦屋も台頭。中でも甲南のインターハイベスト8〈60年〉、準優勝（61年）、国体ベスト４（60年）、神戸の近畿大会優勝（59年）、インターハイベスト４（61年）、ベスト８（63年、65年）が際立っている。 この時期、都会的でハイカラな甲南と丸刈りに鉢巻、地味なユニフォームとバンカラな神戸が両雄というのも興味深い。因みに甲南はアパッチの名で勇名を馳せたスーパースター布谷（61年卒 - 甲南大 - 積水化学）他、西川、森川（62年卒）、伊藤融、伊藤

勲、中井（63年卒）、近藤（64年卒）、山上、上塚（65年卒）といった名選手を多く輩出（森川、伊藤融、中井、近藤、山上、上塚は甲南大に進学、６５年のインカレベスト４の主要メンバー）。大学卒業後も甲南倶楽部のメンバーとして第一回全国クラブ選手権（75年）で全国制覇、台湾遠征も行っている。とりわけ、布谷は選手引退後も甲南大他のコーチで活躍、関西学連のトップを務める等、その名を知らないバスケット人はいない。

これに較べ、神戸は中川（60年卒）、平尾、山本（62年卒）、山戸（64年卒）らの名選手を輩出しているが、卒業後、大学・社会人で活躍したのは中川（60年卒 - 慶応大 - 積水化学）、阪川（61年卒 - 関学大 - 積水化学）、北川（63年卒 - 関学大 - 日本伸銅）と数少ない。もっとも64年卒のインターハイ組から医者３名、同じく67年卒のインターハイ組から大学教授２名を出しているのがいかにも神戸らしい。この間、小西（65年卒）や河野（66年卒）が率いる葺合がインターハイに64年、65年と連続出場、国体にも64年に出場、更に、64年、66年と二度にわたり、近畿大会で優勝しているのは特筆に値する。

この間の著名選手としては千種（私立育英67年卒 - 大商大 - 住友金属）がいる。高校時代はケガに泣いたが、大商大に進学後、大輪の花を咲かせ、ミュンヘン、モントリオールのオリンピックの日本代表に選ばれている。大学・社会人で活躍した選手では西田（芦屋62年卒 - 慶応大 - 東京海上）、小西（県立尼崎66年卒 - 同志社大 - 三井生命〉、加藤（関学67年卒 - 関学大 - 日立大阪）らがいるが、小西、加藤の早世が惜しまれる。後に指導者になった選手では松岡（神戸65年卒 - 東京教育大 - 中京女子大）や天野（私立甲陽学院66年卒 - 東京教育大 - 兵庫県教員）らがいる。あと、審判、県協会で活躍したのが岸田（神戸市立須磨64年卒―日体大）で、私立親和学園に奉職、35歳で国際審判員資格取得、93年からは県協会理事長、副会長を歴任、2015年の早世が惜しまれる。

第四期（1967年―73年）

私立滝川、私立育英、神戸市立御影工業の３校に県立尼崎や私立関学がインターハイに出場しており、育英が２度ベスト８に進出している。近畿大会では滝川、御影工業がそれぞれ１回優勝している。この間の著名選手としては藤本（育英69年卒 - 大商大 - 日本鋼管）と沼田（県立加古川東70年卒 - 同志社大 - 松下電器）がおり、藤本はモントリオールオリンピックの日本代表、沼田はミュンヘン、モントリオールオリンピックの日本代表に選ばれているが、藤本の早世が惜しまれる。あと大学・社会人で活躍した選手では、藤原（尼崎68年卒 - 同志社大 - 松下電器）、尾前（尼崎68年卒 - 同志社大 - 住友金属）、納富（育英72年卒 - 大商大 - 松下電器）、中村（関学72年卒 - 関学大 - 東京海上）らがいる。後に指導者になった選手では赤坂（県立津名71年卒 - 日体大 - 兵庫県教員）がいる。日本協会で活躍している人材では日本バスケットボ - ル協会副会長、ＷＪＢＬ専務理事の西井（市立芦屋71年卒 - 早稲田大 - 三井生命）がいる。

第五期（1974年―82年）

県立明石、県立津名、私立育英、神戸市立御影工業の４校が、競い合ってインターハイに出場。79年には御影工業が近畿大会で優勝している。県明石の75年から78年までの県大会4連覇は特筆に値する。この間、大学・社会人で活躍した選手では東谷（津名77年卒 - 明治大 - 大和証券）、和田（明石78年卒 - 同志社大 - 東京海上）、神足（明石７９年卒 - 同志社大 - 丸紅）、塚本（育英79年卒 - 明治大 - 日本鋼管）、石原（育英81年卒 - 大商大 - 日本鋼管）、紙戸（県立鳴尾82年卒 - 筑波大 - 東京海上）らがいる。

因みに和田は明石衣川中時代主将として全国制覇をしている。後に指導者になった選手では中村（県立神戸81年卒 - 筑波大 - 兵庫県教員）がいる。

第六期（1983年―88年）

83年に県立西宮南と県立西宮今津の西宮勢２校がインターハイに初出場したが、その後

は、私立育英、神戸市立御影工業の２校か、或いはその何れかともう１校（県立西脇工業または私立関学）が出場している。大学・社会人で活躍した選手では大西（育英85年卒 - 明治大ー豊田通商）がいる。因みに、兵庫県出身でその後、活躍した著名選手としては古川（御影工業96年卒 - 東海大 - アイシン - 栃木ブレックス他で現役）、大西（育英2001年卒 - 日体大 - 松下電器 - 東芝）、正中（県立明石2003年卒 - 青山学院 - トヨタ自動車 - アルバルク東京で現役）らがいる。

次に女子であるが、大きくは５つの期間に分けることが出来る。

第一期（1951年―58年）

県立神戸、私立芦屋女子、私立親和が中心、54年の神戸の西日本優勝、56年の親和の国体ベスト４が際立っている。

第二期（1959年―63年）

私立親和と私立野田の２校拮抗時代。61年には両校ともにインターハイベスト８、また同年の国体では野田が国体ベスト８と頑張った。

第三期（1964年―67年）

私立野田と私立夙川学院の２校拮抗時代。なかでも夙川のインターハイベスト８、国体準優勝（65年）、近畿大会優勝、インターハイ３位、国体準優勝（67年）が際立っている。この間の著名選手としては井戸（私立親和65年卒 - 東京教育大、67年のユニバーシアード日本代表）、熊谷（夙川67年卒 - ユニチカ山崎 - 世界選手権日本代表）、岩本（夙川68年卒 - ユニチカ山崎 - 韓国ナショナルチーム主将）らがいる。

第四期（1968年―72年）

私立夙川学院を軸に神戸市立葺合が２回インターハイ出場、68年の夙川学院のインターハイ準優勝が際立っている。この間の著名選手としては山本（夙川69年卒 - ユニチカ山崎）が74年のアジア選手権、アジア大会、75年の世界選手権、76年のモントリオールオリンピックに日本代表として出場、62才の若さでの早世が惜しまれる。

第五期（1973年―88年）

私立夙川学院と私立甲子園学院の２強時代。特に甲子園学院は連続19年インターハイ出場、この間、79年と82年に準優勝、84年と88年にベスト４まで勝ち進んでいる。夙川学院も80年に準優勝、81年、82年とインターハイベスト４まで勝ち進んでいる。兵庫県女子チームの存在を全国区にした功績は大きい。この間の著名選手としては世界選手権に出場の大谷（甲子園76年卒 - ユニチカ山崎 - 81年全日本女子主将）、大山（甲子園77年卒 - シャンソン主将 - 82年日本リーグ最優秀選手）、久保田（甲子園80年卒 - シャンソン - 83年全日本女子主将）、アジア大会に出場の金高（夙川79年卒 - 筑波大）、根兵（夙川80年卒 - ユニチカ山崎）、清瀬（夙川80年卒 - ユニチカ山崎）、ユニバーシアードでは石垣（甲子園74年卒 - 筑波大 - 兵庫県教員）、遠藤（夙川82年卒 - 筑波大）、西川（甲子園85年卒 - 筑波大）らがいる。

＜コーチ・指導者＞

- **松本幸雄**　協会理事長としての活躍もあるが、指導者としても、昭和７年の旧制時代から35年間、県立神戸女子部を指導し、同校の黄金時代を築きあげた。
- **武藤義人**　50年から57年頃まで県立神戸男子部を指導、サラリーマンコーチとして週２回の指導、その厳しさで鬼コーチと恐れられた。国体近畿予選で山城を破った陰の功労者。
- **山垣清平**　58年から66年まで教諭として県立神戸男子部を指導、近畿大会優勝（59年）

インターハイベスト４（61年）、ベスト８（63年、65年）といった輝かしい戦績の蔭の功労者。当時、隆盛を極めていた武蔵高校の畑や静岡高校の馬渡のバスケット理論を取り入れ、頭脳的なバスケット指導方法を確立。インターハイでの勝ち方も知る文字通り知将と呼ぶにふさわしい指導者。

・**山戸英夫**　51年から64年にかけて私立親和学園の教諭として同校バスケット部を指導、緻密なバスケットでどのチームも付け入る隙を与えなかった。インターハイに８回出場、56年国体ベスト４、61年には近畿大会で優勝の成績を上げている。

・**富永勇三**　58 年私立甲南高校卒業、甲南大時代に母校のコーチに就任、米国戦略を導入、ボックス＆ワン、ゾーンプレス等を取り入れ、60 年、61 年の連続インターハイ出場の蔭の立役者。卒業後は三菱電機伊丹で監督を務めた。

・**山田　隆**　63年から78年まで神戸市立御影工業高校の教諭として「走るバスケット」で同校バスケット部を指導、71年以降の同校の輝かしい戦績の基礎をつくった（72年の全国高校選抜大会でベスト８、近畿大会での優勝〈73年、79年〉）。また、審判員や協会関係者の育成をしてきたことも特筆される。

・**金森　皐**　七尾高校 - 金沢大卒（1960年）、私立育英高校教諭・コーチとして「走るバスケット、激しいバスケット」で同校バスケット部を指導、多くの著名選手を育て上げた。

・**霜村武彦**　67年頃より私立甲子園学院を指導、73年から83年まで11年間連続インターハイ出場、79年、82年に準優勝の戦績を残すほか、多くの著名選手を育て上げた。

・**松本和郎**　64年頃より、私立夙川学院を指導、その後の同校の素晴らしい活躍の基礎をつくり、また多くの著名選手を育て上げた。
82年開催のアジア・ジュニア選手権で全日本ジュニアナショナルチームの監督として第３位の成績を残した。

＜審判員＞

・**古市一夫**　戦中から戦後にかけて審判の先駆者として活躍、県の審判長も務めた。西の古市、東の鹿子木と並び称せられ、戦後、日本協会が公認審判制度を発足させた時の７名の中の一人（神戸二中〔現県立兵庫〕 - 旧制高松商工卒）。

・**秋里瑞穂**　県立神戸在学中に女子コーチの松本幸雄氏からコーチ方法、ルールや審判法の初歩を学び、大商大に進学後も、審判としての研鑽に励み、関東に移住後、自らも国際審判員として活躍する傍ら、７名の国際審判員を育成した。日本女子体育大学で審判法を指導し、女子審判の道を切り開くことにも尽力した。

・**山戸英夫**　東京都出身、旧制青山師範卒業後、九州で奉職、51年に古市を頼って来神、私立親和学園指導の傍ら、62年、兵庫県で最初の国際審判員資格を取得、東京オリンピックに審判員として参加。

・**山田　隆**　県立神戸、神戸大で選手として活躍。卒業後は神戸市教員。市立御影工業指導の傍ら71年、兵庫県で二人目の国際審判員資格を取得。アジア大会、ユニバーシアード大会等内外における国際ゲームの審判員として活躍。

＜協会関係者＞

・**松本幸雄理事長**1950－1954年　　・**下村健一会長・道盛正理事長**1955―1958年
・**小曾根眞造会長・道盛正理事長**1959―1964年　・**小曾根会長・国本勉理事長**1965―1967年
・**小曾根会長・杉野伊平理事長**1968―1976年　・**小曾根会長・山戸英夫理事長**1977―1981年
・**鬼塚喜八郎会長・山田隆理事長**1982―1986年・**鬼塚会長・小西彬夫理事長**1987年―1992年

松本理事長

昭和３年神戸三中（現県立長田）から関西学院高商部に進学、昭和６年の協会創設時から協会に関わり，要職で活躍。昭和22年には兵庫籠球を発刊、ガイドブックや指導書等当時のバスケットボールに欠かせない資料を数多く作成した。又、県立神戸女子部の指導はもとより、県下各地区における指導にも取り組んだ。得意の語学力を生かし、外国文献の翻訳・研究及びそれに基づく指導等の取り組みで尽力、広く貢献。芦屋市役所図書館に松本文庫があり。

下村会長

全日本高校選手権、国民体育大会の他、アジア大会代表チームの壮行試合の開催など日本的大行事を兵庫県に誘致した。

道盛理事長

御影師範卒業後、神戸一中教員から戦後、東京文理大卒業後、48年に県立神戸高教員、部活の指導を開始、その後、校長から国本とともに協会の世話するように指示されたのが協会とのかかわりのはじめ。部員に協会の仕事を手伝ってもらうなかで出会ったのが当時の神戸のエース・リーダー格であった山田。バスケット界人材の発掘、育成をした名伯楽。1960年には協会が主催して当時全国に勇名を馳せていた畑龍雄氏が率いる東京の私立武蔵高校との合同合宿を実施。県からは各地区選抜プレヤー18名とコーチ28名が参加，畑理論を学んだがその仕掛け人。又、1960年から1962年にかけて韓国から高校チームを招聘し、兵庫県選抜チームとの親善試合も実施した。

小曾根会長

下村会長の後を受けて、59年から81年までの長きにわたり、会長職を務めた。阪神内燃機の社長業の傍ら、県内外での協会の存在を高めることに尽力された。68年には紫綬褒章を受章された時、協会の振興のために小曾根杯を協会に贈呈。

国本理事長

県教委指導主事に転出した道盛の後を引き継いで、総務委員長から理事長に就任。県立津名高校教頭に転出するまでの３か年間、東京オリンピックの後の協会への加盟チーム数の増大を踏まえ、協会組織の改編充実、若手人材の登用を図った。

杉野理事長

現役時代（三高 - 京都帝大 - 神戸学士倶楽部）の華やかな活躍、協会に参画してからの地道な働き、理事長に就任してからの新進気鋭の若手の抜擢、組織の充実等々、その働きには目覚ましいものがあった。73年からは近畿協会の理事長を兼任、77年に早世されたのが惜しまれる。

山戸理事長

78年に日中米ソの国際女子大会を神戸市で開催、成功に導いた。80年にはアシックス杯高校招待優勝大会を県協会主催で開催し、全国選抜大会に出場の他県チームを招待、県下高校チームの強化を図った。

鬼塚会長

鳥取県出身、49年神戸でオニツカ（株）設立、当時、県神戸監督の松本と相談してバスケットシューズの開発をスタート、スポーツシューズメーカーとしての第一歩をしるす。その後、順調に業績を伸ばし、世界三大シューズメーカーの一つに成長77年アシックス（株）に社名変更、代取社長を務める。77年に関西学生バスケット連盟会長、全日本学生バスケット連盟副会長を務め、82年より小曾根からの進言で第４代県協会長に就任。ユニバーシアード大会では多額の寄付を行う等、大会の成功に貢献した。フェスピック

大会等国際イベントやインターハイも県で開催、県協会の存在を全国に知らしめた。２００５年に日本バスケットボール協会会長に就任、2007年に亡くなるまでこれを続けた。

木下武副会長

85年から11年間副会長、県クラブ連盟会長を兼任。神戸二中（現県立兵庫）出身。進学した早稲田大では主将を務め、日本鋼管でセンタープレヤーとして活躍、53年のアジア大会に出場。

山田理事長

1984年に神戸インカレ、1985年には神戸ユニバーシアード大会を誘致し、成功裏に収めた陰の功労者。国際審判として活躍するなか、日本学生連盟の幹部とのコミュニケーションを図り、後に理事長になる新聞記者出身の小西の事務処理能力を活用し、大会を成功に導いた。1988年全国高校選抜大会、インターハイの神戸開催は、ユニバーシアードで見せた兵庫県協会の組織力、運営力が評価された賜物であるが、その中心的存在。他に、「医事と栄養管理」を協会のテーマに掲げ、更に、スポーツドクターとして有名で、戦後52年のヘルシンキオリンピック大会候補（バスケットは参加できず）であった日笠と他２名のドクターを主たるメンバーとするクラブチーム「ドクターズ」を中心に医療班の結成を推進、その後の協会と医療関係者の連携の端緒を作った。2004年67才の若さで早世されたのが惜しまれる。

小西理事長

山田理事長から押される形で理事長就任。協会での役員の役割を細分化し、新たに企画委員会と渉外委員会を設置。88年のインターハイ開催に向け、準備を進めた。同時に、県バスケットボール愛好会を立ち上げ、かつ第一回県バスケットボールカーニバルを開催する等々普及活動にも努めた。また全国高校選抜大会を始めて東京以外で開催し、成功裏に終了させた。選手強化の面では、米国からオレゴン州立大のインマンコーチを招き、高校男子向けに強化練習会を開催、そのレベルアップに努めた。

以上のように、兵庫県協会での取り組み姿勢、役員それぞれが、各担当できっちりと仕事をこなし、大きなイベントに向けては、皆が一致団結して取り組む姿勢は、当時のバスケット界でも高く評価されている。そのバックボーンになっていたのが、地元神戸の経済人（下村、小曾根、鬼塚）、県立神戸高校の人脈（コーチの松本、武藤、教員の道盛、国本、卒業生では秋里〈52年卒〉、山田〈55年卒〉、小西〈56年卒〉）、それに神戸大学の人脈（教授の野村、バスケット部ＯＢの山田、伊藤、岩田、医者の西林）であるが、その陰に、それらを結びつけた山田のリーダーシップがあったことを銘記しておきたい。

＜参照文献＞

「協会創立５０周年記念誌」
「同左７０周年記念誌」（兵庫県バスケットボール協会）
「甲南大学バスケットボール部創部５０年誌」
「旧制甲南高等学校バスケットボール部史」
「一中，県一、神高バスケットボール部史　７０年のあゆみ」
「兵庫籠球特別号」（追悼　山田隆　前会長）

（文責　蒲田尚史）

図書紹介「ビジネスパーソン＆スポーツパーソン」

丸山博司著書「企業が求める人材 それは考えられる人」を読んで

［事務局］

当振興会では、文武両道を目指す学生スポーツの本来の有り方について、これまで何度か問題提起してきた。特に大学の体育会、とりわけ強豪校でプレーする選手にとっては学生生活をどう送るかは、その将来を左右しかねない大事な問題。卒業後，ＮＢＡにチャレンジする選手，Ｂリーグでプロを目指す選手、一般企業に就職し、企業人として実業団チームでプレーする選手、教員として就職する選手等々様々であるが、そこに共通する課題は、社会人として身に着けておくべきマナーや常識を学生時代にどのように学んでいるかという点。個人レベルではそれぞれの学校の先生、コーチ、先輩から個別に指導やアドバイスを受けているとは思うが、これらに関し、書物としてまとまったものは、寡聞にして知らない。

今般、紹介させて頂くのは、丸山博司氏の著書「ビジネスパーソン＆スポーツパーソン企業が求める人材　それは考えられる人」。丸山氏は、奈良高校から東京教育大に進学、大学時代にはあの有名な吉井コーチの薫陶をうけユニバーシアード日本代表選手として、社会人になってからは八幡製鐵（現日本製鐵）で実業団選手として、それぞれ活躍された。選手引退後は、社業でも活躍され、同社九州支店長、関係会社役員を歴任されるなどビジネスパーソンとしても実績を残されてきた御仁。企業や大学から招聘されて就活セミナーの講演もされている。

同書は同氏がビジネスパーソンとして活躍された経験を踏まえ、それに裏打ちされた具体的なアドバイスであり、社会人一年生に推薦したい著書であるが、加えて冒頭に述べた大学体育会バスケットボール部で活動する現役選手（以下、体育会学生）は勿論、一般のバスケットボール愛好者にも是非、精読をお勧めしたい一冊である。

以下、幾つかのポイントに分けて紹介したい。

Ⅰ　最近のスポーツ界の動きと本書の狙い

スポーツ界でプロ化や幼児化が進み、スポーツ振興が推進され、それが各分野での発展に寄与しているのは素晴らしいことであるが、その反面、指導する側も、勝利第一主義に走るあまり、文武両道の心得、心技体の調和を教える機会が少ないように思われる。一般学生ならば、一日を睡眠、勉学、生活と遊びに分けて過ごしているが、体育会学生はこの生活と遊びの時間を削って冒頭申し上げた社会人としてのマナーや常識を身に着けるための勉強をしてほしい。特にプロを目指している体育会学生はセカンドキャリアーを心配する向きも多いと聞く。そんな体育会学生のために本書が役立てば幸い。

Ⅱ　本書の中で著者が最も訴えたいことと具体的な取り組み策

「考える」ことの大切さ、そのために思考力をつけること。これは学問をしないと身につかないが、別に難しいことではなく、とりあえずは、本を読むことや人の話をよく聞くことで良い。これを大脳生理学でいうと体力を司る前頭葉と知力を司る後頭葉、それぞれの袋を大きくすることである。具体的な行動としては、手帳を持ち，気になった情報は書

きとめ、良いと思った資料はファイル（今の体育会学生にとってはスマホを活用すればたやすいこと - 編集者追加）し、そして考えていることをまずは紙に書きだすこと。これらをＫＪ法により、大分類、中分類、小分類に分け、優先順位を付け，問題点を抽出し、解決策を考えていく。

つぎに、ＰＬＡＮ（計画）、ＤＯ（実行）、ＣＨＥＣＫ（評価）、ＡＣＴＩＯＮ（改善）をサイクル化していく。実行するのに大切なのは「準備」、何をいつまでにやるかといった計画を立てること。次に粘り強くやり抜く意志力、「粘り強さ」は「意志の強さ」に比例し、「意志の強さ」は「達成感の強さ」に比例する。最後に、よく話し合うこと。実は、体育会学生は部活の中でそれらを日常的に実践していることを思い浮かべてほしい。

加えて、スポーツには勝ち負けに運が付き物であり、どうすれば運を呼び込めるか考えることも大切。そのためには、よく学び、よく考えることは勿論、特に他人がしていない努力をすることが大事である。基本的な目標や夢を持ち、その達成のために色々と準備する、例えば自己暗示・イメージトレーニングなども良い。自己の勝ちパターン、リズムに乗るパターンを意識する。このためには「小さなことを大切にする。そして自己の得意なプレーに徹していいリズムをつかむ - 著者の恩師である故吉井四朗氏の言葉」ことが肝要。

Ⅲ　参考になる資料やヒント

１．　読書

本を読まないと人間的な成長、進歩はない。

お勧めする本は多くあるが、一例を挙げると

思考の整理学　外山滋比古　著

「物を考えるのに、――腹に何も入っていない朝のうちが最高の時間」

２．　資格をできるだけ取る、あるいはその準備

日本バスケットボール選手会初代会長の岡田優介氏。

岡田氏は青山学院大学を卒業、2007 年にＢリーグ選手としてデビュー、日本代表にもなったが、2010 年に公認会計士試験に合格し、会計塾を開講している（編集者追加）。

３．　家に机

多忙を極めるなか、ゆっくりと考える時間がないが、毎日考えることは必要。

そこで家（下宿、寮）の部屋に机を置き、たとえ１０分でもそこに座り、考える癖をつける。

「ビジネスパーソン＆スポーツパーソン」

著　者：丸山　博司

発行日：2020 年１月２４日

発行所：青山ライフ出版（株）

発売元：（株）星雲社

定　価：1500 円＋税

（文責　蒲田尚史）

【先人の軌跡】「神田バスケットボール資料室」紹介

「ＪＢＢＳバスケットボール資料」の分別を完了して

［歴史部］

当振興会は、1986 年以来、多くのバスケットボール関係者から歴史的資料、記念品、新聞スクラップ、写真、映像など多数の資料を振興会に寄贈していただきました。これら振興会の資料を下記のように分別・整備し、今後の追加分も含め、多くの皆様に活用いただけますよう「神田バスケットボール資料室」と命名しましたので、紹介します。

歴史部としては、「バスケットボールを愛する人たち（先人の軌跡)」を収集・保管・整理し、その歴史的史料を次世代につなげることを活動の一つとしています。

この活動の概要は主として、下記が挙げられます。
① バスケットボール資料の収集・整理・分別・保管、
② 史料を検証し、ＷＥＢサイト、機関誌（プラザ）などで公開、
③ 次世代への史料を継承、様々な人の閲覧、問い合わせに対応。

多くの資料の中でそれぞれ保存される場所として適切である判断される団体がある場合、下記のように、寄贈、納本、または資料提供しています。
① 「東京オリンピックの技術映像」フィルムを日本スポーツ科学センターの研究室、
② 「バスケットボール発行物」「プラザ」を秩父宮記念スポーツ図書館、
③ 「バスケットボール技術書」「バスケットボールプラザ」を国会図書館、
④ 「月刊バスケットボール」（日本文化出版）創刊号から約 300 冊を流通経済大学
⑤ 野球博物館、昭和記念館など。

また、収集した資料は、大きく下記の３つに区分されます。
① バスケットボール関係の刊行物、
② 個人の収集物、
③ 大会記念章、大会参加章などの物品。

振興会では、史料を整理し、「神田バスケットボール資料室」として、６か所のゾーンに分別しました。

Ａゾーン　「日本体育協会記念史」、「籠球」誌、「バスケットボール」誌、「協会だより」（日本バスケットボール協会)、各団体などの記念史、「1964 東京オリンピック関連資料」など多数、

Ａゾーン書棚

Ｂゾーン　「各オリンピック大会報告書」、「各アジア大会報告書」、「ユニバーシアード大会報告書」など、

Ｃゾーン　「オリンピック・国際大会・全日本総合・国体・全日本学生・インターハイなど各大会参加章、記念品」、「新聞スクラップ」、

（Ｃゾーン）東京オリンピックのメダルほか

（Ｃゾーン）全日本選手権大会記念スプーン ほか

Ｄゾーン　書籍（ルールブック、指導書、チーム記念史、団体記念史、学校記念史）、

Ｅゾーン　大会プログラム　多数
（全日本総合・日本リーグ・ＮＢＬ・ＪＢＬ・Ｂリーグ・ＷＪＢＬ・大学・高校・中学・国体などの国内大会、
アメリカ・フィリッピン・韓国・中国・チェコを相手の国際試合、キリン・サントリーボールなど海外チーム招待大会）、

Ｆゾーン　バスケットボール一般発行物
（スポーツイベント誌、イラスト誌、バレー＆バスケットボール誌など）、

Ｄゾーン書棚

Ｇゾーン　バスケットボール人物抄、

Ｈゾーン　各種資料・写真・映像ほか。

上記「神田バスケットボール資料室」の資料は自由に閲覧できます。
「神田バスケットボール資料室」への閲覧、問い合わせ先「メールアドレス」は下記のとおりです。

contact@jbbs.jp

会員だより

リングに向かって“飛べ” １０年後の子供達

その６：香港、日本人学校「J-Wings」の報告

鈴木　承二

今回は、アジアカップ大会で活躍され、「香港 Js」のコーチとして指導されていた矢ケ崎成人さんから香港日本人学校バスケットチームの投稿があったので紹介する。

矢ケ崎さんはアジア大会での“香港 Js”メンバーで、アジア大会発足の 2005 年から主力メンバーとしてスーパーシニア大会に参戦、現在も活躍中である。

香港日本人学校に通学する小学生バスケ同好会

矢ケ崎 成人

2010 年から週１回の練習を 10 年間、今年創立 28 年となる日本人のバスケ同好会「香港 Js」の有志コーチ仲間らと一緒に続けてきました。

毎年 10～15 人程度、３～４年生以上の子供たちが集まって活動してきました。バスケ初心者が大多数を占めることから、パスやドリブル、シュートなど基本技術の体得はさることながら、スポーツ全般の能力向上に寄与するとされる俊敏性トレーニングや、手足の動作コーディネーション能力を高めるメニューなどを取り入れながら楽しくやっています。スポーツチームに入って学ぶこと自体が初体験という子供たちが多いため、どんなに単純なドリルでも、まず手本をよく見て、説明をよく聞いて、自分の頭でよく考えながら全力でやりきる、ということを繰り返しコーチングしています。もちろん簡単なことではありませんが、まずはできなくて当たり前、仲間の前で失敗するのは恥ずかしいかもしれないけれど、必ず挑戦することが肝心、だとか、一生懸命がんばって練習を続ければ間違いなく効果はあるけど、中途半端では単なる時間の無駄だよ、なんてことも言葉で伝えながら、成功実体験の積み上げを目指しています。

練習時間は足りないけれど、それでも 6 年生になるころには体も大きく立派に成長するもんだな、と感心させられることも多いですね。

学期末には、ミニゲームで先生方にチャレンジの機会をお願いしたり、対外活動として、中学部の生徒さんも含む他チーム（JSBBC）との対抗試合、お隣の深圳市の小中学校の日本人クラブチームとの交流バスケットクリニック・親善試合などにも参加させていただいています。緊張しながらもいつもと違う大きな相手に敢然と向かっていく小さな姿には毎回胸が熱くなります。観戦の親御さんらの応援にもひときわ熱がこもる、とても楽しいひとときとなります。

香港日本人学校校門

香港日本人学校の歴史は古く、その発足は明治 40 年で、現在の学校は昭和 41 年設立という系譜をたどるそうです。これまで香港で何人の日本人小学生が、どんなふうにバスケにかかわってきたのか、

会員だより

資料もみつからずここでの記述は叶いませんが、主に親御さんの転勤事情でわずか数年間の香港滞在中にも、バスケを通じて何かすばらしいいものを学んだことは確かでしょう。それは世代を越えても香港バスケマンとして共有できるものかもしれません。

香港では、昨年来の一般市民の安全な生活を脅かす反政府デモ活動が継続するなかで、ここへきて目下世界中に蔓延する新型コロナウイルス禍も重なり、子供たちのバスケも中断せざるを得ない状況となっています。安全や健康がもっとも大切なことで、そしてそれは当然のように与えられたものではない、ということに身をもって感謝し、責任をもって追求してゆかねばなりませんね。一日も早く問題が解決し、また元気にバスケが続けられる日がくることを切に願っています。

以上

会員だより

横浜カップ・新型コロナウィルスとの戦い

岩手マスターズ　油井　康

正月３日、キッチンでつまずき、ガラスに手を打ちつけて左手の人指し指を負傷した。病院にも行かず、テープをぐるぐる巻きにして凌いでいたが、持病で血流を良くする薬を常用しているため、中々出血が止まらず、かかりつけの病院に行くと直ちに縫合することとなった。

親指と人指し指に大仰に包帯をしている姿をみて、『利き腕でなくて良かったですね』と慰めてくれる人が多く、そのたびに私の利き腕は左手で、とりわけ人指し指と親指は生活の手段として、一番重要な部分だと説明した。

１月１６日、恒例の、母校バスケットクラブの関東地区新年会が東京銀座で開催され、世話役である三浦真造君等と痛飲した。

毎年、家内を同伴して、翌日歌舞伎を鑑賞するのが年中行事であり、宿泊はいつも銀座キャピタルホテルである。このホテルは、はとバスの起点のホテルで、築地の至近距離なので、中国人の宿泊が多い。何度が中国人と接触しても、その時はなんの心配もなく帰郷した。その後、武漢、ダイヤモンドプリンセスにおける新型コロナウィルスの報道が毎日のように、いろいろな風評とともに流れた。２月に入って横浜カップの開催日が近くなると、中止・延期にならないかと心配になった。

横浜の川戸君に電話し、状況を知らせてもらったが、横浜でのＢリーグが５０００人の観客で開催にふみきったとの知らせを聞き、観客の少ないこの大会は大丈夫か、と安堵した。

併せて、岡山の辻先生のウィルス対策のメッセージをメールしていただき、これを選手全員にラインで通知し、ウィルス第１次デフェンス対策は完了した。

縫合した指の６糸の抜糸が終わり、週一の練習に参加したが、はりきって毎週練習していたなかの３人が不参加となった。痛みと微妙な指先の感覚に縫合部分の皮膚が破れる懸念で、ボールタッチをせずに、ストレッチ、ランニングのみで自分の練習を終えた。

出発５日前になり、家内が『あなたが不参加を表明しないと、ほかの人たちは言いだしにくい』、『チームで不参加にしなさい』と言いだした。

第１回から、面倒をみてくれる、横浜の方々の苦労を考えると、やめる事はできないと答えると、それ以来まったく家内との会話が無くなったが、それでも出場を強行することにした。

マスク、アルコール消毒液、消毒用ナフキン、体温計、手袋を数カ所のドラックストアを巡り歩き、やっと購入し、持病の常備薬を多め、お薬手帳、保険証を鞄にしのばせ、リスクの高い持病持ちで高齢者である私の対新型コロナウィルスのデフェンス対策は整った。

出発当日、家内がいつもなら新幹線駅まで送ってくれるのに、今日はまったく動こうとしない。自分で車を出して出発しようとすると、４日ぶりに口をきいた家内は、私の背中にひとこと、『お土産は持ってこないでね』と浴びせた。

会員だより

ずっと続けていた体温測定は旅行中も継続し、１年ぶりの保土ヶ谷体育館に着くと、会場では、アルコール消毒液を多数配置し、全国から集まった懐かしい顔が、なんの迷いもなく微笑みかけてくれた。

登録全チームのキャンセルは皆無で、正常に開催するとのことだった。

流石に、握手、ハイタッチは無しである。

大会にはいってからの生活は、会場、ホテル、手持ちの消毒液による消毒、手洗いの徹底、マスクの着用、それに約１週間継続していた体温測定など、この大会で一番罹災するリスクの高い私の戦いが始まった。

大会がはじまり、沖縄がんじゅうスターとの１回戦、主力のポイントガード、アウトサイドシューター、３人のドタキャンで、戦力が大幅にダウンし、２０点以上の大差をつけられた。４ピリからのデフェンスを、出発の直前に付け焼き刃で練習したオールコートプレスで何とか差をつめることができたが、逆転するまでには至らなかった。

コロナウィルスのデフェンス、ゲームのデフェンス、両方を成功させることは難しく、それでもなんの事故もなく第１試合を終えることができた。

懇親会の席上、岡山の辻先生の『辻説法』は、コロナウィルス対策の説明、確認であり、適切な説明が参加した全員にいきわたり、なんの心配もなく懇親を深め、いつも以上盛り上がった。

もし、この大会が中止、延期等となった場合、なし崩しに他のスポーツ大会に波及し、２０２０オリンピックの中止まで進むだろうなと思いを巡らした。

大会から帰ってから、事務所の勤務は、朝５分、夕方５分だけにして、職員、外来客との接触を極力避け、人が集まる場所には入場を控えている。

ウィルス感染者を装う私の生活は、１日３回体温測定、手洗い、消毒は小まめにして、風邪をひかぬように、万全の注意をはらいながら、横浜大会最高齢プレーヤー８４歳の対コロナウィルスのデフェンスは、大会終了後もなお続く。

一緒に大会に参加した我がチームメンバーとの連絡は、ラインで通信しあい、全員異常がないことを確認し、３月１４日の練習日に集合する。

私がお土産を持ってこなかった安心感からか、家内も、やっと口をきくようになった。

今日は３月１０日、体温３６．４度、あと４日で３週間。

以上

第 22 回Wリーグ情報

［編集部］

第 22 回Wリーグ(2020－2021 シーズン)の競技形式

創立 22 周年を迎えたバスケットボール女子日本リーグ(ＷＪＢＬ)のWリーグは 2020 年５月８日、第 22 回Wリーグ(2020－2021 シーズン)の競技形式を発表した。

《レギュラーシーズン》

2020 年９月 18 日(金)～2021 年２月 28 日(日)　［12 チームによる２回戦総当たり方式］

全国各地で開催

《プレーオフ》

① セミクォーターファイナル　2021 年３月６日(土)
レギュラーシーズンの５位～８位チームによる１戦先勝方式
開催地　愛知県豊田市 スカイホール豊田

② クォーターファイナル　2021 年３月７日(日)
レギュラーシーズンの３位・４位とセミクォーターファイナルの勝者２チームによる１戦先勝方式
開催地　愛知県豊田市 スカイホール豊田

③ セミファイナル　2021 年３月 13 日(土)～15 日(月)
レギュラーシーズンの１位・２位とクォーターファイナルの勝者２チームによる２戦先勝方式
開催地　調整中

④ ファイナル　2021 年３月 20 日(土)～22 日(月)
セミファイナルの勝者２チームによる２戦先勝方式
開催地　調整中

第 22 回Wリーグ エントリー

Wリーグより 2020 年６月３日、第 22 回Wリーグ第１次エントリーが発表され、各チームの概要が見えてきた。

ヘッドコーチの交代が３チーム、未定が２チーム。

新ヘッドコーチを迎えたのはシャンソン化粧品、日立ハイテク、新潟アルビレックス。

シャンソンは 2004 年～2006 年指揮をしていた李　玉慈(イ　オクチャ)氏を迎え基本に忠実なチームづくりをしてベスト４をめざす。

日立ＨＴは日本女子代表を指揮した内海　知秀(うつみ　ともひで)氏を迎え、今より一つ高い場所への挑戦をすべく前に進め闘うチームをめざす。

新潟は新潟工高男子バスケットボール部を全国大会常連校に育てた大滝　和雄(おおたき　かずお)氏を迎え３期連続最下位チームの再建を期す。

ヘッドコーチ未定のチームはデンソーとアイシン、早期にＨＣを決め新しいチームづくりをして、2020-2021 リーグ戦に向ってほしい

新人選手は、29 名（大学卒 20 名、高校卒９名）を迎えており、リーグに新しい風を吹き込んで女子バスケットボールを一段と高いレベルにしてほしい。インカレトップ４からの８名(優勝：東京医療保健大４名、準優勝：白鴎大２名、第３位：拓殖大１名、第４位：愛知学泉大１名)の活躍を期待したい。

移籍選手は 11 名。９シーズン、シャンソンに在籍した本川　沙奈生(もとかわ　さなえ)がデンソーに移籍したのが注目、悲願の優勝を勝ち取れるか！

１次エントリーで最多４名の移籍選手を獲得した日立ＨＴ、前日本代表ＨＣの内海ＨＣの手腕でプレーオフ進出を期待したい。

Wリーグ オータムカップ 2020 in 高崎

５月９日の発表で、７月に実施されるサマーキャンプは東京オリンピックの関係で行わずトーナメント形式のカップ戦を９月に『Wリーグ オータムカップ 2020 in 高崎』を実施する、こととなった。

関東で行われる大会で交通の便が良いので多くの観客の見学をお願いしたい。

『Wリーグ オータムカップ 2020 in 高崎』大会概要

日　程　：2020 年９月４日（金）～６日（日）
会　場　：高崎アリーナ（群馬県高崎市)、JR「高崎」駅 徒歩：約８分
概　要　：社会人チームを交えた全 16 チームが参加。
　２ブロック８チームのトーナメント形式で３日間開催。
　敗者チーム同士の対戦の３日間行い、１チーム３日間均一に１試合実施。
組合せ　：組合せ抽選方法は後日決定。
　社会人チームの選出方法については協議の上決定。

第 23 回Wリーグ（2021-22 シーズン）から参加する「プレステージ・インターナショナル アランマーレ（アランマーレ)」（後述）を是非選出してほしい。

Wリーグ新規参入チームについて

６月４日の発表によれば、第 23 回Wリーグ（2021-22 シーズン）から「プレステージ・インターナショナル アランマーレ（アランマーレ)」が参戦するという。

バスケットボールのメッカ秋田県よりの新チーム参戦は大変喜ばしい。

新会員（チーム　アランマーレ）情報

株式会社プレステージ・インターナショナル
設　立：1986 年 10 月（東京証券取引所　市場一部）
資本金：14 億 8,666 万円（2019 年３月 31 日時点）
所在地：本社　東京都千代田区麹町 2-4-1 麹町大通りビル 14 階
業　態：ロードアシスト、プロパティアシスト、インシュアランスなどの分野でＢＰＯ(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)事業を手掛ける企業。
従業員：連結 3,671 人（2019 年３月 31 日時点）
拠　点：世界 18 ケ国 22 拠点

〈チーム概要〉

チーム名：プレステージ・インターナショナル アランマーレ（アランマーレ）

設立年度：2015 年

活動拠点：秋田県秋田市

選手

NO	選手名	P	身長 cm	出　身　　（備　考）
1	久岡 真歩子	ＳＧ	166	日本女子体育大学 （キャプテン）
2	駒沢 杏	ＰＦ	172	八戸学院光星高校
3	古谷 有紀	ＰＦ	171	札幌大学
4	小澤 彩佳	ＳＧ	167	北翔大学
7	玉田 那奈	ＳＧ	169	日本大学
11	河瀬 ひとみ	Ｃ	175	松蔭大学
13	中島 萌奈美	ＰＧ	165	関東学院大学
14	児玉 楓	ＳＧ	164	天理大学
15	田邉 風香	Ｃ	175	駒澤大学高校
23	平松 飛鳥	ＰＧ	162	東京医療保健大学（2020年、東京羽田より移籍）
30	砂川 夏輝	ＰＧ	161	早稲田大学
33	田中 陽子	ＳＧ	166	大阪人間科学大学
50	佐藤 千裕	ＳＦ	168	北陸大学
		平均	167.8	

PG ポイントガード、 SG シューティングガード、
SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、 C センター

スタッフ

役職名	氏名	備考
部長	高島 由美	
ゼネラルマネージャー 兼ヘッドコーチ	小嶋　裕二三	（前 デンソーＨＣ）
アドバイザリーコーチ	高橋 憲一	
トレーナー	内田 幸織	
マネージャー	長島 汀	

以上

事務局だより

［事務局］

◇ **令和２年度理事会、通常総会**について書面決議という「特例措置」とさせていただきました。４月９日に理事会、監査、続いて５月 21 日に総会開催の予定でしたが、４月３日から５月７日まで活動を中止することにしました。５月 12 日から活動を再開し議案、決算書類の作成、会計・業務監査、理事のみなさんへ「令和２年度通常総会」資料送付、書面決議（メール）承認、会員の皆さんへの資料送付、総会（はがき）での書面決議とあわただしい５月、６月の２か月でした。

◇ **第 13 回シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI の開催**

2020 年 11 月 12 日(木）、13 日(金）の２日間で、昨年同様、国立オリンピック記念青少年総合センター内の体育館を使用して開催。詳細は、改めて案内の予定です。
コロナ感染の影響で全国の体育館の使用が不可能になり、バスケットボールの練習ができない状況です。予定されていた各地方のシニアの大会も軒並み中止になっています。11 月に予定されているシニア交歓大会の開催についても、「ＪＢＡの活動再開に向けたガイドライン」「感染拡大の状況」などに加え各チームの皆さんのご意見を参考のうえ、実施の可否について判断します。

◇ **神田バスケットボール資料室**

ＪＢＡ(公益社団法人日本バスケットボール協会)は、1930 年（昭５）設立以来 90 年の歴史があります。振興会は、ＪＢＡ設立 100 年に向けてバスケット関連の資料の収集・整理をする活動（神田バスケットボール資料室の充実）を続けます。会員の皆さんで保管している資料があれば、事務局にご連絡いただきたくお願い申し上げます。
過去のバスケットボールの記録・記事などについて知りたいこと、調べたいことがあれば回答します、事務局にご連絡ください。

◇ **会費納入のお願い**

新年度が始まりました。会費の納入を宜しくお願いいたします。
振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、早めの納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行	００１００－３－３１６０３５ ＮＰＯ法人日本バスケットボール振興会	
三菱ＵＦＪ銀行	神保町支店	普通預金口座　１６８４７４３ 特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会
みずほ銀行	丸の内中央支店	普通預金口座　１００４６８７ 特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

プラザ　こぼればなし

◇　新型コロナウィルス禍のため、振興会、昨年度の事業活動報告・事業会計収支決算報告と新年度の事業活動計画（案）・事業会計収支予算（案）の総会による会員決議の遅れに伴い、新年度第１四半期発行のプラザ 86 号発送が７月にずれ込んだ。
２月から各種スポーツのイベントが延期または中止となり、プラザ 86 号でイベントの紹介や報告は少ないが、常連の岩手の油井康さん、鈴木承二さんによる会員だよりや、各事業部による新企画の連載があり、充実した誌面を提供できたことは嬉しい。

◇　東京オリンピック最終予選、日本は開催国枠でワールドカップ優勝の米国と共に出場するが、新型コロナウィルス禍のため東京オリンピックの１年延期により、2021 年６月 22 日から７月４日までの開催となった。

◇　ＦＩＢＡアジアカップ 2021（男子）の予選が、2022 年に開催されるワールドカップ地域予選の一つとして、2020 年２月 20 日から始まった。開始早々の第１ラウンドから新型コロナウィルス禍のため開催中止が生じ、第１ウィンドウの残り開催日が８月 17 日～29 日に延期と発表されている。第１ウィンドウ３試合のうち２試合までしか消化されず、グループＡ～Ｆのうち、グループＡ～Ｃでは新型コロナウィルス発生の早かった中国が無試合で、フィリピン、タイ、日本、マレーシア、グアム、香港が１試合のみの消化である。第１ウィンドウの結果は次の 87 号で報告したい。

◇　高校バスケットボール界の強豪校である秋田県立能代工業高校の名が消えようとしている。秋田県は 2005 年に市内の公立高４校を統合して２校にするといい、能代工業は能代西校と統合することになり、今年３月「能代科学技術高校」とする案が示されている。島本和彦さんは、統合後の校名の再考を求め、３月末から署名の活動を行い、3,666 人の署名を集めて嘆願書を６月初めに県議会に提出した。バスケット界の関係者であれば「能代工業高校」の校名を是非残してもらいたいものである。

ＮＰＯ法人
日本バスケットボール振興会
〒１０１―００５１
東京都千代田区神田神保町１－４０
豊明ビル　３０１号室
電話／ＦＡＸ（03）3219－9311
メール　contact@jbbs.jp